講　義　要　項

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目</td><td colspan="2">在宅看護論援助論</td><td>担当者</td><td>畑中　勇二</td></tr>
<tr><td rowspan="2">区分</td><td>単位数</td><td>時間数</td><td colspan="2">授　業　形　態</td><td>履修年次・前/後</td></tr>
<tr><td>1　単位</td><td>30 時間</td><td colspan="2">講義・演習・DVD・その他</td><td>2 年次・後期</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="5">1．基本的な看護技術を応用し、創意工夫しその対象の状況に応じた在宅看護を展開するための知識・技術・態度を理解できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="5">1．家庭訪問・初回訪問
1)家庭訪問の意義、手順、倫理　2)リスクマネジメント・家庭訪問の特徴
2．家族の支援
1)家族介護のアセスメント・家族の健康管理　2)家族関係の調整・介護方法の指導
3．在宅におけるに日常生活援助
1)食事・栄養
(1) 食事摂取能力（嚥下・消化・吸収能力）　(2) 食事内容の選択、食材の調達方法の援助
(3) 栄養を補う食品の種類と選択方法の援助　(4) 食事の摂取能力低下時の援助
2) 排泄
(1) 排泄の状況と障害・便秘の予防と援助　(2) 排泄補助用具の種類と選択方法
(3) 尿、便失禁の予防と援助
3) 清潔
(1) 清潔の保持の状況　(2) 清潔の援助方法と自立支援
4）移動
(1) ADL と IADL のアセスメント　(2) 移動時の安全確保
(3) 移動補助用具の種類と選択方法
4．介護福祉見学
1) 介護・福祉用具の見学　2) 福祉住宅の見学学習
5．在宅における医療援助
1) 服薬と管理
(1) 服薬状況の把握と管理　(2) 医師および薬剤師との連携
2) 在宅酸素療法
(1) 対象の特徴　(2)機器の種類と原理
(3)合併症の予防　(4)安全管理と援助
3) 在宅人工呼吸療法
(1)対象の特徴　(2)機器の原理・構造
(3)気道浄化の方法　(4)合併症の予防
4)尿道留置カテーテル法
(1)対象の特徴　(2)合併症の予防</td></tr>
</table>

	(3)在宅における安全管理と援助 5)胃瘻、経管・経腸栄養法 (1)対象の特徴　(2)栄養剤の種類と特徴 (3)栄養評価　(4)合併症の予防 (5)在宅における胃瘻の種類、安全管理と援助 6)褥瘡管理 (1)褥瘡発生のリスクアセスメント　(2)褥瘡のアセスメントと処置(スケール) (3)除圧・体位変換に関する器具の種類と選択 7)CAPD (1)対象の特徴　(2)CAPD の管理 (3)リスクマネジメント・療養者・家族の支援 8)小テスト (1)在宅看護援助技術のまとめ
参考文献等	1．系統看護学講座　統合分野，　在宅看護論，医学書院.
評価	1．単位修得試験
備考	実務経験：訪問看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。

講　義　要　項

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目</td><td colspan="2">在宅看護論援助論</td><td>担当者</td><td>瀬尾　まどか</td></tr>
<tr><td rowspan="2">区分</td><td>単位数</td><td>時間数</td><td colspan="2">授　業　形　態</td><td>履修年次・前/後</td></tr>
<tr><td>1　単位</td><td>15 時間</td><td colspan="2">講義・演習・DVD・その他</td><td>2 年次・後期</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="5">1．基本的な看護技術を応用し、創意工夫しその対象に応じた在宅看護を展開するための知識・技術・態度を理解できる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="5">1．感染症のある療養者の在宅看護
1)感染症の種類と特徴　2)感染経路と看護上の留意点
3)家族指導
2．在宅療養者のリハビリテーション
1)家庭での日常生活に関するリハビリテーションの意義　2)リハビリテーションの実際
3．寝たきり者の在宅看護
1)寝たきり状態のアセスメント　2)合併症の予防
3)生活意欲の向上　4)社会資源の活用
4．認知症のある療養者の在宅看護
1)認知症に伴う問題行動　2)コミュニケーション
3)社会資源の活用
5．難病療養者の在宅看護
1)難病とは　2)難病患者とその家族が抱える問題
3)自己決定への支援　4)社会資源の活用
6．終末期の在宅看護
1)終末期を在宅で迎える条件　2)在宅終末期ケアの展開
3)終末期における家族支援
7．地域で生活する重症心身障害児の看護
1)重症心身障害児とは　2)社会資源尾活用</td></tr>
<tr><td>参考文献等</td><td colspan="5">1．系統看護学講座　統合分野，　在宅看護論，医学書院.</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="5">1．単位取得試験</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="5">実務経験：訪問看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。</td></tr>
</table>